

開催報告： 石川県支部 かがやきセミナー 「多職種とつながる～受けてから学ぼう～」

始めに

平成 26 年、当支部では、医師事務作業補助者が医療の質の向上に寄与するためには、実務者の教育が重要課題の一つと考え、医師事務作業補助者の実務能力向上・ボトムアップを目指しました。そして、世話人のうち 8 病院の実務者をメンバーとした教育ワーキンググループ（以下、教育WG）を発足し、活動を開始しました。

教育WGでは、医師事務作業補助者の教育を「On-JT」「Off-JT」の 2 つの視点から考えることとして、「On-JT」は病院間の自律的相互教育を目指しました。「Off-JT」は実務者向けのセミナー開催を年内の目標として話し合いを重ね、今回の「かがやきセミナー」が完成しました。セミナーの切り口は“受け手から学ぶ”として、それぞれの業務に関わる多職種を知ると共に、業務に対する知識と理解を深めたいと考えました。

平成 26 年 11 月 26 日、石川県医師会館にてかがやきセミナーを開催し、148 名の方にご参加いただきました。

開会の挨拶 矢口 智子（NPO 法人日本医師事務作業補助研究会 理事長）

かがやきセミナー開催に至るまでの経緯と趣旨を述べられセミナーの名前には、成長し輝き続ける医師事務作業補助者への想いが込められていることを紹介されました。このセミナーで得たものを日々の業務に役立てていただきたいと述べられ、開会となりました。



『介護認定の申請から訪問調査及び主治医意見書の流れについて』

講師： 勝木 保夫（やわたメディカルセンター院長）

当支部顧問の勝木先生は、介護認定審査会の委員をいらっしゃいます。始めに、要介護認定はどのように始まり、どのように決定されるのかについて解説されました。そのうち、介護認定審査会による審査及び判定がどのように行われているのかについて、実際の様子が見られる動画を交えてご説明いただきました。その後、主治医意見書の記載について、診断名・治療内容・特記事項を中心に、具体的な症例を挙げられながらそのポイントをご説明いただきました。



～介護認定審査会の様子が見られる大変貴重な動画を拝見させていただきました。主治医意見書は、患者・家族の生活に深く関わる重要な書類であることを心に留め、介護の手間をイメージできる内容を正しく伝えられるように努力することが大切だと強く思いました。～

『保険会社の視点から～保険会社の書類について理解を深めよう』

講師： 林 靖訓（損害保険ジャパン日本興亜株式会社北陸保険金サービス
金沢保険金サービス二課 課長代理）



保険会社の診断書を、診断書様式に沿って各項目の意義を解説していただきました。実際に保険会社と患者や病院の間で起こった問題の例から、保険会社と患者の関係について述べられ、診断書は、患者に支払うべきものを正しく支払うために利用していると説かれました。今回は特に事故・損害保険についてご講演いただきました。

～以前より、実務者から講演の要望が多く寄せられていた保険会社の診断書です。石川県支部第2回登地区会（珠洲市総合病院主催（開催報告をご覧ください））では、診断書作成に関する課題がより浮き彫りとなりました。その打開策は“受け手を知ること”です。大変貴重なご講演でした。今後もこのような機会を継続して設けたいと思いました。～

『チーム医療における医師事務作業補助者との関わり～看護師の立場から～』

講師： 坂口 満智子（芳珠記念病院 ほうじゅグループサポート室
地域包括ケア推進担当 課長）



外来に医師事務作業補助者を導入するまでから多職種共同のチーム活動に至るまで、外来統括師長として関わられたご経験をお話いただきました。多職種間で患者情報が効果的に共有されなければ、インシデントの増加につながり、人間関係の悪化を招く。それは医療の質の低下であると述べられ、連携の重要性を示されました。互いの職種を認め、尊重し合い、共有する“場”を持つことが大事であると説かれました。

～現在のお立場からは、外来からの在宅療養支援についても述べられ、情報をつないでいくことの大切さを一層感じているとのことがありました。そして、その情報は診察室にあると示され、医師事務作業補助者には、それに気づく感性を養い、その情報を多職種につないで欲しいとのメッセージをいただきました。～

『明日の業務につながる薬剤に関するはなし』

講師： 熊野 英一（たんぽぽ薬局株式会社 石川県エリアマネジャー）



病院で医師が発行した処方せんが、その後、調剤薬局でどのように流れているのかについて、ご説明いただきました。その後、処方せんへの記載ルールを解説され、全国における疑義照会の多い内容と、厚生局による保険薬局における個別指導の主な指摘事項を紹介されました。更に、薬局で発生するクレーム内容にも触れられ、最後に「残薬調整は次回というわけにはいかないのか」「ジェネリックへの変更を促す目的は」等、実務者が日頃思っていた疑問にお答えいただきました。

～明日の業務に役立つ知識を得たことはもちろん、薬を取り巻く様々なことを多方面から教わりました。調剤薬局と良いコミュニケーションを取り、切れ目のない患者サービスにつなげるため、日々の業務の中で医師事務作業補助者として何ができるかを考える機会となりました。～

『医療における個人情報保護 ～その歴史と重要性～』

講師： 上田 博 （芳珠記念病院 名誉院長）

医療における倫理・個人情報についてお詳しい当支部顧問の上田先生にご講演いただきました。医（療）倫理の歴史を述べられ、その重要性を説かれ、医療の現場は個人情報の集まりであると示されました。また、医療機関等における個人情報の例を述べられ、外来での指名呼び出しや、警察から患者に関する問い合わせ等、個人情報の取り扱いについて、Q & Aを挙げてご説明いただきました。



～医療は様々な権利・義務・倫理のもとに成り立つことを見つめ直し、医療人であることを再認識し、人としてのマナーやモラル・患者と家族への思いやりを持って働きたいと改めて思いました。権利の院内掲示に関するご講演がありましたが、自分が働く病院ではどのようになっているのか、今一度、確認したいと思いました。～

閉会の挨拶 佐久間 寛 （芳珠記念病院 院長）

「医療というのは多職種共同から成り立っている。今回のテーマはとても良かった。医師事務作業補助者が他職種と関わることで、医療全体がもっと円滑になると思う。ぜひ頑張って欲しい。来春開通の北陸新幹線“かがやき”は東京から来るが、東京へも行く。かがやき号に乗って、このセミナーも全国につながってほしい。」と、医師事務作業補助者への期待と激励のお言葉をいただき、締めくくりとなりました。



終わりに

先生方のご講演からは、たくさんの知識はもちろん、患者・家族を思いやる気持ち、他の職種を思いやる大切さを教えていただいたと感じています。参加者からは積極的な質問があり、終了後のアンケートでは大変多くの方から用紙に収まらない程のご意見いただきました。

当初を思い返すと、医師事務作業補助者でありながら、その教育の全体像を考えたことはそれまで無く、私に務まるのかという強い不安がありました。しかし、たくさんの方から多大なるご指導を賜り、教育WGメンバーと共に活動を積み重ねることができ、次第に皆の思いが形になる喜びを感じることができました。かがやきセミナーを無事に終えた今は、参加された皆様からいただいた貴重なご意見をしっかりと受け止め「医師事務作業補助者の教育」を更に推し進めたいと改めて決意した次第です。

最後になりましたが、今回のかがやきセミナーに参加された皆様を含め、これまで関わってくださった全ての方々のご尽力に、心より感謝申し上げます。



報告者：石川県支部支部長 越後 加代子